

地域連携

地域包括ケア演習

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

実際に当別町内にてフィールド演習を行いますのでご注意ください。

《担当者名》 鈴木英樹 長谷川純子 大内ふみか 佐藤一成 朝日まどか 柳田早織

【概要】

当別町内の地域ケア関係機関との協働のもと、町民が住みなれた地域で安心して暮らせるよう地域包括ケアの理解を深めるとともに、当別町での具体的取り組みについても理解を深める。また、専任教員の指導のもと、各グループに分かれて、町内の関連事業に参画し、地域包括ケアのイメージを具体化させるとともに、地域包括ケアに対するセラピストの参画意義についての考察を行う。

【学習目標】

地域包括ケアシステムを理解するため、その成立背景や現状を学び、そのシステムにおけるセラピストの役割や具体的な実践方法を提示することができる。

1. 地域包括ケアシステム誕生の社会的背景について列記することができる。
2. 地域包括ケアシステムの概要並びにシステムにおいてセラピストが求められる役割について列記することができる。
3. 当別町における取組について列記することができる。
4. 実際の事業に試行的に携わりながら、現状の課題について列記することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	・講義目的や進め方についての説明 ・フィールド演習についての概要説明 ・地域包括ケアシステムの理解	鈴木英樹
2	地域包括ケアシステムにおけるセラピストの役割	・地域包括システムにおいてセラピストに求められているもの	朝日まどか
3	介護予防フェア（フィールドワークに）に向けた説明	・過去のフェアの紹介 ・オリエンテーション	鈴木英樹
4 ） 9	介護予防フェアに向けたグループワーク	・介護予防フェアにおける内容の企画立案 ・住民や関係者への周知方法の検討 ・その他	担当者全員
10 ） 13	介護予防フェアの実施	・当別町内にて介護予防フェアの実施	担当者全員
14 ） 15	課題提出	・介護予防フェアの企画立案から実施に至るまでの過程について、達成できた点や課題などを整理しレポートにて報告する	担当者全員

【評価方法】

講義演習への取り組み態度50%、演習での取り組みレポート50%

【備考】

教科書：特になし。資料を配布する。

【学習の準備】

障がい者や高齢者が地域で生活するために必要な様々な要因について、事前に学習すること。（予習80分）
また、講義終了後は、配布資料や講義内容に基づき復習すること。（復習80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って理学療法・作業療法・言語聴覚療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

【実務経験】

鈴木英樹、長谷川純子、佐藤一成、大内みづか（理学療法士）

朝日まどか（作業療法士）

柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

地域在住高齢者や障がい者の方々への支援経験を踏まえ、地域の課題解決や住民の健康に関する意識啓発の具体的方法について講義や演習を通じて学生に講義し、地域実践につなげていく。